

びろっば

Vol. 453 2024. **4**

理事長交代

社会医療法人 近森会

表紙の写真

医療情報

乳腺センター 新設

能登半島地震DMAT活動報告

～出張報告～

外国人労働者採用に向けて

近森病院 近森リハビリテーション病院 近森オルソリハビリテーション病院 からのお知らせ

4月

5月

ゴールデンウィークは
暦通りの診療体制
です。

26日
(金)

27日
(土)

28日
(日)

29日
(月)
昭和の日

30日
(火)

1日
(水)

2日
(木)

3日
(金)
憲法記念日

4日
(土)
みどりの日

5日
(日)
こどもの日

6日
(月)
振替休日

7日
(火)

通常診療

救急体制での診療

通常診療

救急体制での診療

通常診療

2024年4月1日

理事長が交代します

ごあいさつ

社会医療法人 近森会 新理事長 就任 入江 博之

Hiroyuki Irie

このたび社会医療法人近森会の理事長に選任されました。この重い職責をお預かりするにあたり、私を信頼し託してくださいました皆さまに感謝し、その期待に応えるべく最大限の努力をいたす所存でございます。

前理事長の高い志を受け継ぎ

まずはじめに、前理事長である近森正幸相談役に対して深い感謝の意を表します。40年以上にわたる近森正幸前理事長のビジョンとリーダーシップの下で、地域社会に根付いた信頼される高度医療機関群が築かれてきました。私はこの近森会の理念と運営方針を受け継ぎ、その使命を全うすることをお約束いたします。

地域医療の課題と対応 ～連携を強化～

全国的に急速な人口減少が顕著になってきています。特に高知県では一般急性期病院が半減し、また医師の働き方改革と相まって、各地の2次医療圏にある医療機関の機能が低下し、地域完結型医療が徐々に難しくなってきつつあります。このため急性期患者さんが当院のような3次救急や基幹病院に集中するようになってきました。近森会は3つの病院などからなる組織ですが、これまでも各病院の特徴と強みを生かし、協力体制を維持し、高度な医療の提供に努めてきました。今後は、急性

期、回復期、慢性期、介護期にわたって一連のサービスを提供する地域包括ケアシステムにも対応できるよう、地域医療連携推進法人「高知メディカルアライアンス」の機能を高めていく必要があると考えています。

未来への展望と取り組み

引き続き以下のような取り組みを進めてまいります。

- 1.最先端の医療技術の導入:** 医療の進歩に合わせて、最新の医療技術を積極的に導入し、患者さんにより効果的で安全な高度医療を提供します。
- 2.地域との連携強化:** 地域医療支援病院として、地域の医療機関などとの連携を一層強化し、包括的な医療ケアを提供します。
- 3.患者さん中心の医療サービス:** 患者さんの立場に立ち、個々のニーズに合わせた医療サービスを提供します。患者さんとのコミュニケーションを重視し、信頼関係を築きながら、安心できる医療環境を整えます。
- 4.災害拠点病院:** 今年の元日に発生した能登半島地震は記憶に新しいところです。高知県のへそとも言える高知市の中心部にある医療機関として、また災害拠点病院として、万一の時には県民の生命を守る最大限の努力をします。

皆の満足度の高い病院に、 幸せな人が幸せな人をつくる、



医療機関の価値

地域に貢献できてこそその医療機関です。その値打ちは以下のような概念で表されると思います。

医療機関の価値 = 医療レベル × 患者数 × 診療期間

高いレベルの医療を、多くの患者さんに、安定して長期にわたって提供できることが大切であると考えます。また、「幸せな人が幸せな人をつくる」とも言われます。職員の教育や環境を整備し、「自分でも満足がいく医療を提供できた」と幸せを感じてもらえるよう、職員を育てていきたいと思えます。本日お預かりした「たすき」を次世代に確実に渡せるまでを使命と考え努力してまいります。引き続き、近森会にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Profile

1976年 土佐高校 卒業
1983年 岡山大学医学部 卒業
1988年 岡山大学大学院 修了(医学博士)
1989年 米国オハイオ州クリーブランドクリニック 留学
1992年 福山市民病院 心臓血管外科
1994年 岡山大学医学部附属病院 心臓血管外科
1996年 ニュージーランド オークランド大学
グリーンレーン病院 留学
2000年 近森病院 心臓血管外科 部長
2017年 副院長兼近森会理事
2023年 近森会 副理事長

- 専門分野 / 成人心臓手術及び大動脈治療
- 趣味 / オペラ鑑賞、歴史書読書、剣道3段

理事長交代に寄せて

新理事長へ期待のメッセージを頂きました。



高知県知事
濱田 省司

このたびの理事長ご就任、誠におめでとうございます。

本県では「県民の誰もが住み慣れた地域で、健やかで心豊かに安心して暮らし続けることのできる高知県」を目指しており、貴会のお力添えは必要不可欠です。

今後とも本県の保健、医療の維持発展にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

入江博之様の今後ますますのご活躍と、社会医療法人近森会のさらなる発展を心からお祈りいたします。



高知市長
桑名 龍吾

この度は、社会医療法人近森会新理事長入江博之様のご就任にあたり、心からお慶びを申し上げます。

貴法人におかれましては、長きに亘り地域に根ざし、救急医療を中心とした医療機能の充実、医療の質の向上に取り組んでこられました。

これまでの豊富な医療技術と経験を生かし、住み慣れた地域で医療が安心して受けられるよう一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げますとともに、近森会の今後の躍進をご祈念いたします。



高知県医師会 会長
野並 誠二

近森正幸先生は、長きに亘り、故岡田玲一郎氏を始め盟友の方々と共に「日本の医療のあるべき姿」を模索し、その実現に尽力されてこられました。その高い理想ゆえ、すべてを実現できず、多少の無念さをお持ちのことと存じます。そして、この度、ご自身で育て上げられた優秀なスタッフに後を託されました。近森病院の皆様におかれましては、入江博之新理事長のもと、新たな理想の実現に向け邁進されますことを御祈念申し上げます。



長い間本当にありがとうございました!!

社会医療法人 近森会 相談役 **近森 正幸**



はじめに

近森病院に外科医として帰ってきて45年、(医)近森会理事長に就任してもう39年になります。

当時の近森病院は付き添い看護の野戦病院のような救急病院でしたが、そのような病院が屋上にヘリポートを有する救命救急センターの近森病院、全国有数の回復期リハビリを提供する近森リハビリテーション病院、地域包括ケア病棟の近森オルソリハビリテーション病院という素晴らしい今日の近森会にまで発展できたことは、多くの先生方やスタッフのパワーを結集した結果であり、ともに歩んでくださった皆様にはただただ感謝の言葉しかありません。

高知だからできたこと

私が医師になった50年前は医療が確立されておらず、創意工夫で外科医として手術をせざるを得なかった時代で、リハビリや栄養サポートなどの未開の分野が広がっていました。近森病院のある高知が田舎で土地代や人件費、諸物価が安く、全国統一の診療報酬のもと利益が十分確保できたので、先進的な医療のハード、ソフトの充実に充てることができましたし、回復期リハビリテーションや管理栄養士による病棟常駐型栄養サポートから多職種による病棟常駐型

チーム医療など、夢を持って実現できた時代でした。そんな素晴らしい時代に多少のマネジメント能力があり、患者さんに24時間365日いつでもいい医療を提供しようという強い思いのパワフルな男がたまたま幸運に恵まれ続け、今日の近森会ができたように思っています。

時代が大きく変わって

現在は国家財政が厳しく診療報酬の単価が上がらず、高齢患者が減少を始めるとともに少子化で若手スタッフが集まらず、今まで有利であった田舎が逆に厳しくなっており、諸物価や人件費の高騰なども合わさり、時代が大きく転換し、まるで海図のない大海原に漕ぎ出すような時代になったと考えています。

おわりに

理事長に就任される入江博之先生は、20年間でまったくのゼロから日本有数の心臓血管外科までに育て上げられた先生で、理事長としてこれからの大変な時代に近森会を力強く率いてくださると信じています。今日、近森会は高知県民、市民にとってなくてはならない病院になっています。「高知の地域医療の最後の砦」としていつまでもあり続けていただきたいと切に願っています。



2024年度 近森会グループ 各施設の目標

社会医療法人
近森会



今までの発想にとらわれない 自己変革

～高知の地域医療を守る
最後の砦になろう!!～

理事長
入江 博之
いりえ ひろゆき



より価値の高い医療を目指し地域医療に貢献

～働きやすい職場を目指して～

近森病院



院長
川井 和哉
かわい かずや

24時間365日、高知の救命救急・高度医療を守り、困ったときに頼りになる病院であることが当院に求められています。

チーム医療、病棟連携や医療DXを推進し、効率的で質の高い医療を展開します。他の医療機関と強固な関係性を構築し、一歩進んだ地域医療連携を目指します。医師・スタッフの働き方改革を進め、より働きやすい環境を整備します。待遇や福利厚生を充実させ、職員がやりがいと誇りをもって働ける職場を目指します。人材を確保・育成し、組織の若返りと活性化を推進します。常に最新の医療に注目し、低侵襲手術、内視鏡治療や高難度手術の充実と増加を図り、悪性疾患治療にも力を注ぎます。

当院の役割とニーズを常に検証し、新たな価値を創生・最大化し、高知の地域医療に貢献していきます。



近森病院
総合心療
センター



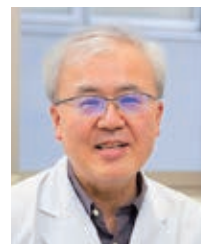
地域から求められる 精神科医療をめざし 心新たに前進を

近森病院総合心療センターは昨年度55周年を迎えました。1968年に近森病院精神科として開設し、近森病院第二分院を経て、2013年に精神科急性期病棟60床となり現在の名称で近森病院に統合され今日に至っています。

当センターでは入院治療部門と外来治療部門の連携により多職種協働の理念のもと精神科チーム医療を運営し、患者さんの地域社会での生活をサポートする実践に努力しています。その一環として難治性精神疾患に対してクロザピン治療やECTなどの専門的治療法を導入して入院期間の短期化に取り組み、近森会グループの精神科専門訪問看護ステーション ラポールちかもりや社会福祉法人ファミーユ高知との連携などを行っています。

今後も精神科診療に対する地域社会のニーズに応えられるように心新たに頑張っていきたいと思えます。

センター長 戎 正司
えびす まさし



近森
リハビリ
テーション
病院

地域リハビリテーションを 実践しよう

院長 和田 恵美子
わだ えみこ



近森リハビリテーション病院の回復期リハビリテーション病棟は、急性期治療を終了した患者さんを早期に引き受け、適切な医療保険のリハビリテーション医療サービスを行い、可能な限り自立、もしくは要介護状態を軽減することが重要な役割です。

高知県の急激な高齢化を受け介護の担い手は減少しており、いまこそ必要な方にしっかりとリハビリテーションを提供することが求められています。医療だけでなく福祉ともしっかりと連携して高知県の地域医療を支え、「どのような障害があっても住み慣れたところでその人らしく安心して生活できるように」地域リハビリテーションを実践していきます。



柔軟性 ~flexibility~

全国でも数少ない整形外科専門のリハビリテーション病院として開院した当院も、医療情勢の変化に対応し今年度から内科疾患の急性期治療後の患者さんにも療養していただけるようになりました。従来の整形外科専門医2名に加えて循環器内科専門医2名、総合内科医1名の陣容となり、整形外科疾患だけでなく内科疾患にも幅広い対応ができるようになっております。今年度は次の目標である在宅からの受け入れ体制を充実させるために、医師を含めた医療スタッフのスキルアップに取り組み、さらに在宅医療機関との連携をはかっていく予定です。引き続き小回りがきく当院の強みをいかしながら高知県の地域医療に貢献していきたいと思っております。



近森オルソ
リハビリ
テーション
病院

院長 鄭 明守
てい あきもり



社会福祉法人
ファミリー
高知



人と人、地域とつながり 「その人らしく生きる」を 支える

「しごと・生活サポートセンター ウェーブ」は、障害のある方の就労をサポートし、仕事に携わることや稼ぐことの喜びを生み出し、地域での生活を維持し、社会の一員として役割を担えるよう支援を実施します。一方、「高知ハビリテーリングセンター」は、利用者が自分の障害と向き合いながら、様々な事業(社会資源)を実体験できる環境にあります。一貫した支援で、利用者の成長を促し、障害があっても諦めることなく、その人らしい人生のステージにつなげ、他にはない通過型施設としての役割を果たしていきます。更に、障害者の地域移行の拠点となる施設として一層の活動充実を図ります。

社会福祉法人ファミリー高知は、自主的・自立的な経営のもと、社会福祉事業を中心とした質の高い福祉サービスを提供するとともに利用者(障害者)一人ひとりの権利と尊厳を守ります。また、地域貢献活動を通して、地域に暮らす人たちから信頼される社会福祉法人を目指します。

センター長 西岡 由江 にしおか よしえ



新人を迎えて



社会医療法人
近森病院 院長
近森会 副理事長

川井 和哉

かわい かずや

はじめに

今年も多くの新人を迎えることができたことを嬉しく思います。新入職員の皆さん、入職おめでとうございます。職員一同心から歓迎します。新しい力は我々にとっても大きな刺激になり、当院がますます活気づき成長する糧となります。一緒に高知の医療を支え、県民にとって頼りになる病院として発展させていきましょう。

約2,300名が働く、 私たちの近森会グループ

近森会グループは、高知の基幹病院として、高度急性期から急性期、回復期リハビリ、在宅サポートまでシームレスな医療を展開しています。生命にかかわる病気になっても、早く治療し、もし障害が残ってもリハビリで可能な限り住み慣れた地域に帰ることができるよう、職員一同努力しています。

近森会グループ全体で現在、医師171名を含めスタッフ総数約2,300名です。これだけ多くのスタッフでも全ての医療に対応することはできません。そのため

病状が落ち着けば、かかりつけの先生方に逆紹介し地域で診てもらい、悪くなればまた近森へ紹介していただくという地域医療連携を20年以上前から実践してきました。

また、医師、看護師の周辺業務を多職種に委譲し、診断、治療、看護というコア業務に絞り込むことで、医師、看護師は本来の業務に専念できる体制を取っています。多くの医療専門職が病棟に常駐し、それぞれの視点で患者さんを診て判断し介入しています。それぞれの分野では、みんなが主役であり、いきいきとやりがいを持って働いています。

新人の基本は 挨拶と「ほうれんそう」で

社会人になると学生時代とは違い、教科書やマニュアル通りにいかないこともあります。職場では覚えることも多く、分からないこともこれからたくさん出てくるでしょう。初めは分からないのが当然です。遠慮なく先輩たちに訊いて、どんどん学んでいってください。

臨床現場に上手く入っていけるかどうか、不安を



抱えている新人も多いのではないかと思います。しかし、心配ありません、大丈夫です。近森会グループでは、入職してから充実した研修体制を取っています。また、本当に世話好きが多く、先輩たちからの熱烈指導という風土もありますので、安心してください。

ただし、社会人として、笑顔で挨拶をきちんとしましょう。それがすべての基本です。そして、「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」を忘れないようにしてください。

多数精鋭、強みは「人」

わが国で新型コロナウイルス感染症患者が確認されてから、4年が経とうとしています。大災害級のイベントであり、当院も大きな影響を受けました。しかし、職員たちの状況に応じた迅速な対応や、職種を超えた協力体制によって何とか乗り越えることができました。質の高い医療を目指し、自己変革を繰り返すことによって培ってきたチーム医療の証だと誇りに思います。当院の最大の強みはまさに「人」と言っていでしょう。

激変する高知の地域医療

高齢先進県の高知では、すでに高齢者人口の減少が始まっています。そして、急速な少子化により働き手不足が大きな問題となっています。高知県の医療は「機能分化と連携」から「淘汰と集約化」の時代を迎えました。近森病院は高度医療、急性期医療に機能を絞り込み、近森オルソリハビリテーション病院は地域包括ケア病棟の内科機能を更に高めるなど、時代に対応し再編成を進めていきます。

これからは今まで以上に価値の高い医療が求められます。重要なことは、より大きな成果を、いかに少ないコストや時間で達成し、患者さんに喜んでいただける医療を提供できるかです。全職員が高価値の医療を理解し、実践していただきたいと思えます。

想定外のことが起こる時代

2023年度は想定外の政治・経済の混乱、新たな国際紛争そして大きな自然災害が起きました。このように予測できない事態がいつ起こってもおかしくない時代です。できる限りの準備と臨機応変な対応力が求められています。医療はまさにライフラインであり、どんな状況でも必要とされています。そして若者の雇用の場としても大きな役割を担っています。このことを肝に銘じ、高知の地域医療に貢献していきたいと思えます。

チーム医療でいきいきと やりがいを持って楽しく働こう

皆さんが入職された近森病院は、医師、看護師だけでなく、薬剤師やリハビリスタッフ、管理栄養士、臨床検査技師、臨床工学技士、診療放射線技師、メディカルソーシャルワーカー、歯科衛生士といった医療専門職とチームで医療を行う、多職種による多数精鋭の病棟常駐型チーム医療を展開しています。近森方式のチーム医療は、質、量ともに圧倒的で全国的に注目されています。このような素晴らしい職場で専門性を高め、患者さんにとっていい医療が提供できるスタッフに成長してください。また、働きやすい職場づくりをグループの重要テーマと考えています。職員が笑顔で楽しく、前向きに働けるように皆さんと一緒に取り組んでいきます。

さいごに

我々の目標は、患者さんが早く良くなって住み慣れた地域に帰り、元通りの生活を送っていただくことです。当院では医師、看護師ばかりでなく、医療専門職や事務、クラーク、アテンダント、清掃のスタッフに至るまで、みんなで心をつなげて同じ方向を向いて働いています。これからの皆さんの活躍を心から期待しています。医療職というやりがいのある仕事を通じて人間性を高め、皆さんの人生がいきいきと充実したものになることを祈っています。



外来センター6階

4月1日 オープン

乳腺センター 新設

近森病院 乳腺センター センター長 兼 乳腺外科 部長 杉本 健樹 すぎもと たけき



本年4月、私 杉本健樹と柳川信子医師、乳がん看護認定看護師 藤原キミの3名が高知大学医学部附属病院から赴任して乳腺センターを開設します。場所は外来センター6階で診察室・面談室およびマンモグラフィ撮影室・画像ガイド下針生検を行う超音波室を1フロアにまとめ、患者さんがコンパクトな動線で診療を終えることができるようになっていきます。

手術では乳房温存と全切除の選択、全切除の場合の乳房再建や再建方法、薬物では女性ホルモンを抑える内分泌療法、抗ハーブ（HER2）療法を中心とした分子標的薬、抗癌剤治療、免疫チェックポイント阻害剤と非常に多くの治療法の中から最適な治療を選択していく必要があります。

乳癌診療の特徴

乳癌は日本女性では最も多いがんで国内では年間約9万7千人、高知県内でも約600人の女性が罹患します。



診療の主役は乳腺外科ですが、手術のみではなく、検診後の精密検査から術前・術後の薬物療法、転移を来した乳癌の治療や緩和ケア等と多岐にわたる診療を行います。特に治療は多彩で

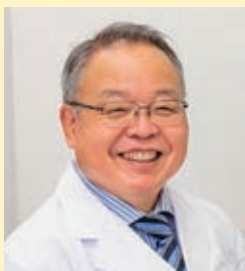
当センターの特徴と方針

それぞれの患者さんが自分らしく治療法を選択し過不足のない最適な治療を提供できるように乳腺センターのメンバーに加え、薬剤師・看護師・診療放射線技師などと多職種連携体制を構築します。そして、選択した治療が完遂できるよう薬物療法の副作用対策や治療中・治療後の整容性を保つためのアピランスケアに加え、化学療法の脱毛を軽減する頭皮冷却装置も導入します。診療の質向上のために乳房針生検のエキスパートや緩和ケアの専門家、認定遺伝カウンセラーやリンパ浮腫療法士にも院外から定期的に応援に来ていただく予定です。

乳癌の正確な診断、適正な治療の提供を行い、意思決定支援と支持療法の充実で、患者さんが社会や家庭で自分らしく生活しながら治療を受けることのできる乳腺センターを目指してチーム一丸となって取り組みます。

患者さんが社会や家庭で自分らしく生活しながら治療を受けることのできるセンターに

私たちが担当します



近森病院 乳腺センター センター長
兼 乳腺外科 部長 杉本 健樹 すぎもと たけき

【認定資格】
外科専門医・指導医、乳腺専門医・指導医、臨床遺伝専門医、遺伝性腫瘍専門医・指導医、家族性腫瘍カウンセラー、検診マンモグラフィ読影認定医師（評価AS）、乳がん検診超音波実施・判定医師、がん治療認定医、乳房再建ティッシュエキスパンダー・インプラント実施責任医師

- 【経歴】
- 1985年 高知医科大学 卒業
 - 1989年 高知医科大学 大学院修了（医学博士）
高知医科大学附属病院 助手（第1外科）
 - 1990年 高知県立安芸病院 外科
 - 1995年 高知医科大学医学部 助手
 - 2006年 高知大学医学部 講師
 - 2007年 同 准教授（外科学講座外科1）
高知大学医学部附属病院 病院教授
 - 2011年 高知大学医学部附属病院 臨床遺伝診療部 副部長
 - 2015年 高知大学医学部附属病院 乳腺センター センター長
 - 2016年 高知大学医学部附属病院 臨床遺伝診療部 部長（併任）
 - 2019年 高知大学医学部附属病院 がんゲノム医療センター センター長（併任）
 - 2024年 近森病院 乳腺センター センター長



近森病院
乳腺センター
乳腺外科

柳川 信子
やながわ のぶこ

【認定資格】日本外科学会専門医



近森病院
看護部
看護師長
乳がん看護
認定看護師

藤原 キミ
ふじはら きみ

講演会

近森病院 第172回 地域医療講演会 〈2024年2月5日〉

『COVID-19が市中肺炎となった時代の感染症診療』

神戸大学大学院 医学研究科 微生物感染症学講座 感染治療学分野(感染症内科) 准教授 おおじごう 大路 剛先生

コロナがone of themになったからこそ求められる感染症の基本原則

近森病院 感染症内科 部長 石田 正之 いしだ まさゆき

大路先生は、消化器内科医から感染症に進まれた珍しい経歴の持ち主で、研究・教育だけでなく診療にも力を注ぐアグレッシブな先生です。今回は感染症診療の基本的な考え方から、実際の症例を提示しての幅広い内容を、的確にまとめられ、臨床の経験に裏打ちされた、臨場感のある講演をいただきました。

コロナ感染症が特別なものでなくなっている中で、感染症に対する意識も薄らぎつつある今、改めて感染症への向き合い方を考える機会になったのではないかと思います。



前列中央：講師 大路先生、左隣：筆者

看護部 新人看護師研修「振り返りの会」

2024年2月1日・15日(近森病院)

更なる成長を期待して

近森病院 7階A病棟 看護師長 濱田 智恵 はまだ ちえ

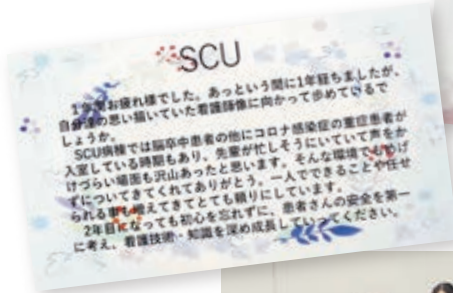
1年を通して行ってきた新人看護師研修も2月の「振り返りの会」をもって全日程が終了しました。

この研修では1年間を振り返り得られた学びや経験を共有し、自身の成長を確認するとともに2年目に向けた課題や目標を明らかにしました。

臨床実習をほとんど経験できなかった年代であり、就職したての時は不安や緊張も大きく、辛いことや悩むことも多かったと思います。

新人看護師たちの振り返りを聞き、先輩たちに支えられながら沢山のことを学び経験し、看護師としてチームの一員として成長していることを実感しました。

この1年間で学んだことを大切にし、それぞれが目指す看護師像や目標に向かって歩めるよう2年目からも引き続き支援していきたいと思っています。



▲ 部署の先輩から、昨年度を振り返って送られた温かい応援メッセージ



能登半島地震 DMAT活動報告

2024年1月12～17日

近森病院 ICU 看護師 主任
急性・重症患者看護専門看護師 齋坂 美賀子 さいさか みかこ

2024年1月1日に発生しました能登半島地震で被災されました多くの皆様にお悔やみとお見舞いを申し上げます。今回、1月12日～17日までDMATとして石川県能登町に派遣されましたので、活動内容を報告いたします。

派遣スタッフ



医師

近森病院 救急科
久 雅行
ひさ まさゆき



看護師

近森病院 手術室 主任
立石 修久
たていし のぶひさ



看護師

近森病院 ICU 主任
齋坂 美賀子
さいさか みかこ



業務調整員

診療支援部 企画課 課長補佐
北川 真也
きたがわ しんや



業務調整員

診療支援部 施設用度課
松木 宏行
まつぎ ひろゆき

死者241人、負傷者1,299人、 住家被害110,287棟※

能登半島地震では見出しのように大きな被害が発生しています。その中で、私たちは能登町の公立宇出津総合病院にて病院支援に入る指示を受け、活動を開始しました。

能登町は他の能登地域の町と比べると死傷者は少ないですが、建物被害や上下水道の断水による生活への影響が大きく及んでおり、発災2週間近くでもまだ復旧の目処が立っていない状況でした。

被災しながら仕事を行う職員の疲弊や、 災害関連死を目の当たりに

病院職員は被災しながらも仕事を続けていて、食事のままならないこともあり、心身の疲弊が深刻な状況でした。そのため、まずは疲弊を緩和するために、在院患者数を減らす転院調整と、救急外来の診療支援を継続しました。それと並行し、今後病院が自立し、元の機能を取り戻せるための支援も、支援病院側と話し合いながら進めていきました。

その中で、災害関連死も目の当たりにしました。高齢者施設のエアコンが地震により故障していましたが、支援には至っていませんでした。患者さんは衣服を着込み、毛布での保温もされていまし

たが、温度管理ができず、低体温に陥ってしまいました。施設職員の方も号泣しながらご家族に電話で謝られており、その様子から厳しい状況の中でなんとか耐えていたことが窺えましたし、災害の厳しさを改めて突きつけられました。

今回得られた貴重な体験を無駄にすることなく、今後の南海トラフ地震に向け、備蓄や災害マニュアルの見直し等を考えて備えていきたいと考えています。

※3月19日現在
内閣府非常災害対策本部「令和6年能登半島地震に係る被害状況等について」より



主な活動

- 医師 …… 日中は入院患者の転院調整、深夜帯のオンコール救急対応
- 看護師 …… 3交代制で救急外来診療支援、トイレの衛生管理
- 調整員 …… 時系列記録、情報収集管理、連絡調整、病院の事務的支援

最大の目標

病院スタッフの
負担軽減

DMAT行動記録

※時分はおおよそです。

1/11(木) 21:00

近森病院を出発



被災地での物資調達が困難な状況を想定し、DMAT車に、支援物資(医療資器材)、食料品、飲料水、寝袋、簡易トイレなど積み込み出発。

1/12(金) 10:00

参集場所である石川県七尾市の公立能登総合病院(DMAT活動拠点本部)へ到着。



1/12(金) 16:00

活動拠点である能登町保健医療福祉調整本部(能登町役場)へ到着。



ひび割れた壁や地面の横に、そのままになった正月飾りが。



1/13(土) 8:30

能登町役場の向かいにある公立宇出津総合病院にて病院支援開始(チーム混成活動)。



1/17(水) 11:43

公立宇出津総合病院にて業務引継ぎを行い撤収。

現地入りの際に使用した道路は通行止めが多発しており、輪島市を經由し日本海側を經由(1/17は加賀市に宿泊)。



1/18(木) 18:40

近森病院に帰院



ALL CHIKAMORI

近森就職セミナー春

3,000とおりの誇れる仕事

2024

3/2 (土)

開催しました

79名の方にご参加

いただきました!

皆さんと近森で

一緒に働ける日を、

楽しみに待っています!



救急救命士ブース初登場!



DMATブースでは、直近に出動した能登半島地震での活動をパネルで紹介



近森にはエキスパートナスがたくさん!



スタッフの皆さん、お忙しいところご協力いただきありがとうございました!

次は、近森就職セミナーGW (5月3日)です!

当日突如現れた「院長ブース」で川井院長も参加者と面談。院長との距離の近さも当院の特徴の一つ! (皆さん緊張ぎみでした)



職員募集中!



詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。



募集職種

- 医師
- 看護師
- 介護福祉士
- 救急救命士
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- 薬剤師
- 臨床検査技師
- 事務



卒業までを走り抜き

近森病院附属看護学校 3年生
西山 果歩 にしやま かな



入学してから今までの間、日々の学習や国家試験対策が辛く、くじけそうになることもありましたが、同じ目標をもつ友人や温かい助言をくださる教職員の方たちのおかげで卒業まで走り抜けることができました。

4月からはそれぞれの場所で看護師として医療チームの一員に加わります。この学校で得た学びを基礎として、患者さんに寄り添った看護ができるように努力を続けていきたいです。



たくさんの方に見守られて

近森病院附属看護学校 田原 佳奈
3年生担任 たはら かな

卒業生達の明るい未来を照らすかのような爽やかな天気にも恵まれた中、第7回卒業式が執り行われました。卒業証書もそれぞれに手渡され、一人ひとりの晴れ姿をみんなで見る事ができました。たくさんの来賓の方、保護者の方、在校生に見守られながら、卒業生の答辞や岡本統括看護部長の励ましの言葉の中にもあったように、「一人ではない」と感じることができる温かい卒業式になったと思います。



学生表彰受賞の
皆さん



出張

外国人労働者採用の手続きへ

2024年7月(予定)から受け入れ開始

2024年1月29日～2月1日 / インドネシア

高知県の生産年齢人口の減少と外国人労働者(介護職)の採用について

社会医療法人近森会 常務理事 兼 管理部長 寺田 文彦 てらだ ふみひこ



看護職の減少により、外国人労働者の採用がはじまります

1月29日から2月1日にかけて、インドネシアの外国人労働者の送出国や現地の介護士養成学校に伺って、採用締結をしてきました。面積が日本の約5倍、人口が2.7億人のASEAN有数の将来性がある国家です。

高知県下では、従来から日本人の介護福祉士や看護助手の応募が少なく、介護福祉士の養成学校の入学率も4割を切る状況です。また、昨年から今年にかけて各病院で看護職の減少による病棟閉鎖が続いている中で、地方の医療機関の労働の担い手として、外国人労働者の採用は避けて通れない状況となっています。

技能実習生となり日本へ来るまでの流れ

今回は、インドネシアのジャカルタで現地の介護技能実習生の送出国である株式会社YSタレントと、バリ島にある介護士養成学校フジアカデミーバリ、および卒業生の派遣を受けているSiloam病院へ伺いました。

現地は気温25度、湿度60%で、雨期の真っ最中でしたが、滞在期間中は晴天に恵まれました。ジャワ島やバリ島といえば、東南アジア特有の観光施設を思い浮かべますが、中心部から少し離れると田畑が生い茂り、近くの海岸沿いは漁師船の船着き場で、古き良き日本の田園風景そのものでした。

労働需要の一致

現地のサラリーマンの月収は3~4万円程度で、国内企業が少なく、兄弟姉妹が多い中で、介護の技術を身につけるため海外に研修・労働に出る必要があります。送出国の

YSタレント社の代表は元・株式会社コムソンの役員で、インドネシア、ベトナム、ミャンマーなどのパイプで日本語の習得を含めて橋渡しをしています。

バリの介護士養成学校には複数の施設があり、それぞれ6月と12月に60名ずつの入学があります。入学当初から日本国内の複数の医療・介護機関からオファーがあり、WEB面接で内定を得て、6か月もしくは1年程度の日本語研修と介護の実技講習を受けて、日本の看護助手として働きます。場合によっては日本の介護福祉士の国家資格を取って永住するケースもあります。



2024年7月、近森会に仲間が入職します

今回は特定技能生9名と技能実習生3名の本採用を行い、それぞれ今年7月と来年1月に入職となります。また6月にも採用面接の予定があり、毎年10名ずつを採用して、日本人に代わるタスクシフトの一人として業務に従事していただきます。

今後は、ベトナムやミャンマー、インドなどを含め、各国の国際情勢や経済事情を見ながら受け入れを継続して、次世代にわたって永続的に選択してもらえる医療機関の土台作りを行います。20歳前後の外国人スタッフが、3~5年間故郷を離れて日本で過ごします。患者さん、ご家族の皆さんも温かい目で仕事ぶりを見守ってあげてください。



◀ 株式会社YSタレントの特定技能生9名と面会

▼ 介護士養成学校フジアカデミーバリの技能実習生3名と面会



すまいる♥ナース通信

専門看護師



シリーズイメージ
キャラクター
モリンちゃん



近森病院 看護部 キャリア開発課 看護師長 久保 博美
精神看護専門看護師 くら ひろみ

地域の要請に応えられる組織、 その基盤を支える看護職のサポート

当グループは組織として地域の要請に応えるため、時間と闘いながら対象の方の最善を考え全力で走り続けています。看護職は人のかかわりを職務として日々感情調節をしつつ、感染対策として自らの生活調整もしながらケアに当たっていますが、思わぬメンタル不調に見舞われることもあります。

私は精神看護の立場から、リエゾン活動として主に看護職のメン

タルサポートに携わっています。メンタル変調は身体より自覚が難しく、客観的かつ支持的なサポートが欠かせません。休むことも復職することも大きな決断となるため、全過程において伴走が必要です。

もちろん看護職のみならず「ケアするためにはケアされなければいけない」という先達の言葉を旨として、誰もが安心して働くための支援を継続していきます。

ハッスル研修医

真梨子の方の山本です 初期研修医 2年目 山本 真梨子

やまもと まりこ

え、もう2年目？時が過ぎるのは早いですね。花粉でむずむずする時期です。申し遅れました。高知県出身山本真梨子です。

正直昨年度は病院という環境や医師という職業に慣れる・学ぶことで精一杯でした。まだまだ未熟でご迷惑をたくさんおかけしたと思います。上級医の先生方や同期はもちろん、秘書さん、看護師さん、薬剤師さん、管理栄養士さん、リハビリさん、SWさん、技師(士)さんなどなど、食堂のお姉様方までたくさんの方々に日々元気をいただき、助けていただき、ここまで走ってこれることができました。

2年目のステップアップに向けて、私の目標は「気づく力を養う」ことです。某先生からの受け売りですが一番大事に

している言葉です。“何か違う”をキャッチできるように精進して参りたいと思っております。

さらに疾患に関してだけではなく、栄養面や患者さんの背景、ADLなど、退院に向けてその後の生活を見据えた医療を学びサポートできるように心がけていきたい所存です。

おっと、救急車のサイレンが聞こえます。そろそろ当直に行って参ります！



近森会グループで元気に働く仲間を紹介しします

歳時記

いちご狩り (1月13日・2月10日)

一般自治会でいちご狩りに行ってきました！
楽しいお写真のご提供、掲載のご快諾、ありがとうございました。



あまくて
おいしい♪



●写真ご提供：揚田佑佳子さん、田内絵美菜さん、産田雄介さん、吉本有希さん、西村哲さん(一般自治会役員)


 リレーエッセイ

応燕(おうえん)

 近森病院 薬剤部 科長
 宮崎 俊明 みやざき としあき


タイトルは誤字ではありません。何を言っているのだらうと思っている方が大半だと思います。『燕』はプロ野球球団の東京ヤクルトスワローズを指していて、東京ヤクルトスワローズを『応援』する



ことをもじています。私の『応燕』歴は気が付いたら30年になっていました。『応燕』に欠かせない『傘』もしっかりと持っています。

小さい頃はテレビ中継で『応燕』していましたが、ふと妻から

出された「ネットの配信コンテンツを契約したら」との提案にまんまと乗っかり、ネット配信ではほぼ毎試合観戦しています。あまり野球に興味になかった妻や娘も一緒に観るようになり、野球のルールや選手を覚えてくれるなど家族みんなで充実した『応燕』ライフを送っています。

この記事が出るころには2024年ペナントレースが開幕していると思います。去年は5位だった東京ヤクルトスワローズが優勝できるように今年の『応燕』も頑張ります!!



 私の趣味

登山の魅力

 近森リハビリテーション病院
 作業療法士
 島村 佳那子 しまむら かなこ


私の趣味は登山です。山登りの魅力はなんと言っても登頂時の達成感や、山頂で食べるご飯の美味しさです。お湯を注ぐだけのカップ麺も一段と美味しく感じますし、ホットサンドを作って食べるのも楽しいです。

また、山では人とすれ違う時に気持ち良い挨拶も多く、祖父母ほどの年齢の方に励まされながら山頂を目指すこともあります。先日、祖母から譲り受けた古い登山靴で歩いていると、山頂目前で靴底が外れてしまいました。そのまま頑張って歩いてみようかとか、靴の紐をほどきそれで



固定してみようかとかか困っていると、通りかかった女性が声をかけてくださいました。登山ルートを目印をつけるために持っていたビニールテープで応急処置をしてくださり、お陰で無事登頂することが

できました。山頂ではみかんのお裾分けも頂き、12月の寒い日でしたが、心温まりながら過ごすことができました。

今年の目標は富士山登頂です!

FREE 私の〇〇

まるまる

 〇〇にフリーワードを入れて
 語っていただきました


私の「趣味」

 近森病院 総合心療センター
 4階病棟 看護師

 伊勢脇 涼乃
 いせわき すずの

私はゲームをしたりイラストを描いたり音楽を聴いたり、色々な手段で息抜きをしています。中でもイラストは私の中で最も長く続いている趣味であり、物心ついた頃からすでに絵を描いていました。

小さい頃に流行っていたアニメや漫画の話題で盛り上がった時、当時の友達と1枚の画用紙にラクガキをして見せ合っていた思い出が今でも甦ります。家でも白紙のノートにラクガキをしては親や兄弟に見せてまわり、バランスが悪いと指摘された時は母や



姉から絵心を伝授されていました。

今でも好きなゲームの原画集を蒐集していて、最近では6万円の液晶タブレットを買ってデジタルに挑戦中です。看護師の仕事が始めた時は絵を描くことも少なくなるかと少し寂しい気持ちがありましたが、案外イラストの工程で頼られることがしばしば。白紙の状態から丸投げされて四苦八苦することも…。何はともあれ、まだまだペンを持つ手は止まらなさそうです(笑)。



看護学校通信

高知龍馬マラソン2024にスタッフで参加

2024年2月18日



近森病院附属看護学校 2年生 氏原 麻喜・嶋崎 楓
うじはら まき しまさき かえで

2月18日(日)に行われた第10回高知龍馬マラソン2024にBLS(1次救命処置)スタッフとして参加しました。

事前にBLS講習を受けていましたが、参加者の具合が悪くならないかととても心配でした。私達は、ファンランを担当しました。車いすの方や子供の参加が多く、事故がおきないか意識して見守っていました。

皆さん楽しそうに走っていた姿が印象に残っています。今回の経験をこれからの学習につなげていきたいと思います。

OPEN CAMPUS

6/9 SUN 日 7/28 SUN 日 8/17 SAT 土
10/27 SUN 日 2025 3/22 SAT 土

詳細は で検索、または右のQRコードより公式ホームページをご確認ください。社会人や保護者の方の参加も大歓迎です。



近森で学ぶ。

高知龍馬マラソン 2024

2024年2月18日

走った方、スタッフとして参加された方、皆さんお疲れさまでした!



ランナー



スタッフ・救護

● 写真ご提供: 小笠原由佳さん&西川文乃さん、久手堅憲太さん、澤田みささん

編集室通信

これまで、いろいろな雑草と格闘する生活でした。しかし、昨年の朝ドラ「らんまん」の影響で、バイカオウレンを覚えて出かけました。この花をみるためだけに来た方や花の可愛さを語る県外の方たちを横目を通り過ぎながら写真を撮りました。新しい試みとして、生活の中に花を入れるような園芸家を目指したいです。 やまもり

診療数

令和6年2月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数 15,207人
新入院患者数 1,000人
退院患者数 1,019人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 12.51日
地域医療支援病院 紹介率 ... 95.67%
地域医療支援病院 逆紹介率 288.76%
救急車搬入件数 511件
うち入院件数 281件
手術件数 551件
うち手術室実施 353件
うち全身麻酔件数 249件

演題募集中

第6回 近森会グループ 学術集会2024

2024年8月3日(土) AM 会場:管理棟3階

テーマ Next Stage

-地域と共生・共栄していくために
我々が取り組むべきこと-

演題募集期間 4月19日(金)まで



大会長 石田 正之 (感染症内科 部長)

募集要項および演題申込書は、上のQRコードからダウンロードできます。今年は業務改善活動の発表枠も設けております。たくさんのご応募をお待ちしております。

小松 洵也

Junya Komatsu

近森病院 循環器内科 医師
内科専門医

聞き手／ひろっぱ編集部

2022年に始まった「デバイス外来」を担当し、現在は不整脈専門医取得の勉強に励む。プライベートでは妻である外科の小松優香医師とともに1歳半の息子さんの子育て真っ最中。多忙な日々は想像できるが、どこか飄々としたオーラが漂う。

日本の果てで想う、 いま、ここ、自分

趣味は旅行。どちらかという人の行かないような場所をチョイスする傾向があり、学生時代は日本の東西南北の端を巡った。「北は宗谷岬、南は波照間島（人が行ける最南端）、東は納沙布岬、西は与那国島へ。どこも風が強くて異国のような独特の雰囲気がありました。そこに立つと“自分”を感じられるというか、うまく言えませんが…」と。

おそらく行った人にしかわからない感動を、若き小松青年は享受されたようだ。

「そうだ！こんな場所に行きました」と、スマホの写真（下）を見せてくれた。きっとスマホの中には、他にもたくさんの珍百景が残っているのだろう。



デカ！このカニの爪のオブジェを見るためだけにわざわざ北海道紋別市へ。高さ12m、幅6m、重さ7t。

BBQインストラクターとしての おもてなし

「BBQインストラクター」とは、検定試験に合格し、楽しいBBQでおもてなしができる人を指す。小松医師は学生時代に、3月まで一緒に働いていた泌尿器科の小林医師とこの検定を受けた。

『夏に川や海で焼肉をする料理法をBBQとは言いません。みんなで火を囲みながら会話を楽しむパーティー文化を指します』というのをテレビで観て、偶然、高知で検定講座があると知って取得。「当時は周りで受けている人もおらず、おもしろそうと思って。僕がもてなすBBQは、簡単な前菜で寛いでもらっている間に、メインの肉塊をじっくり焼き、それを取り分けながらわいわい過ごすスタイル。病院横のスーパーで肉1ポンド（450g）を買って、前日に豚肩ロースならマーマレード、チキンなら塩こうじなどに漬けて、それを焼くだけでご馳走感もあっておすすめですよ」と楽しそうに語ってくれた。

絶対量をこなして技術を習得

医師としてのスキルアップはもちろん、成長するためには、経験の「絶対量」をこなすことを信条としている。初めは不明瞭でも、やり続けていると理解が追い付き、一気に成長を実感できるということを学生時代に気づき、以降ずっと取り組まれている。

「そういう意味では、近森病院は症例が多く、若い医師にも臨床経験を積極的に与えてくれるのでありがたいです。だからこそ、科内の若いドクターも時代を先取っていこうという気概もあって、この雰囲気の中で働けるのは恵まれている」と話してくれた。

必要とされる 場所で 道を究めたい

必要とされる場所で

不整脈分野に進んだ決め手は、不整脈センターのセンター長・三戸部長のスカウト（部長の地元、広島の子供向けの店）。ただ、元々「人手が足りない分野を専門にする方が性にあっていて」と思っていたため、県下で専門医が少ない不整脈分野には興味があった。「もちろん今は不整脈分野にやりがいを感じていますが、もし不整脈の専門医が増えたなら別分野に進んでよいとも思います。学んできたことは無駄にならないと思うし」と持論を展開された。

影響を受けた方を何うと、窪川部長と答えられた。窪川部長は、ことあるごと（飲み会）に循環器内科医のやりがいを語ってくれるという。（中学時代のテニス部の後輩の父という縁もある。）

「1人の患者さんを長く診ていると、心臓だけ診ていてもダメだと思う反面、心臓を抑えておくと、周りが割合バランス良く見えるかなとも感じる」（『地域医療連携ガイド』掲載）という窪川部長のメッセージは、経験を積むにつれ身にしみてきたとしみじみ。

患者さんの声で昨年度MVP受賞

デバイス外来では、定期的に来られる患者さんとの会話も楽しみ。

「お化粧をした元気な姿が見られるのは嬉しいですね。『猫は元気ですか?』とかたわいもない話をしています」。一見、飄々と感じる部分もあるが、会話をするとよく笑い、親近感を抱かせる。そんな雰囲気が、患者さんからの「対応が良かった」との声によるMVP受賞につながったのだろう。先生に会うことを楽しみにしている患者さんのためにも、近森のデバイス外来には、先生が必要であると思った。

